

《特集》平成2年度 ブロック研究会活動報告



ますます盛んなブロック研究会の活動は、各ブロック内にとどまらず、ブロック間の連動へ、そしてその成果は各会員個々への共有化をより一層はかって参りたいと存じます。

なお、各ブロック研究会では毎年、ブロック毎の会報を発行しております。詳細につきましては、学会事務局までお尋ねください。

北海道ブロック

- リーダー
浅川 修二 北海道栄養短期大学
- サブリーダー
白川 智洋 静修短期大学

運営委員

- 大賀 淳 北海道武蔵女子短期大学
- 丹治 和典 静修短期大学
- 能登 洋子 札幌大学女子短期大学部
- 渡辺 一郎 静修短期大学



1. ブロックの運営動向

北海道ブロックでは、昨年度から和野内崇弘先生が本学会の会長に就任され、更に、今年度は丹治先生が学会事務局長に就任されたことにより次のような異動が生じた。

新運営委員（会報担当）渡辺一郎（静修短大）

また、従来会員所属の主要短大を会場に持ち回りで開催してきたブロック研究会を、今年度は会員の便宜を図って、札幌市都心部の施設を会場にして開催を試みた。

2. ブロック研究活動

(1)第10回研究会の開催
期 日：平成2年3月24日（土）
会 場：北海道会館
出席者：13名
リーダーの浅川先生の開会挨拶に引き続き3件の研究発表が行われ、その後当ブロック初めての試みとして出席者による懇親会が催された。

なお、研究発表のテーマ及び発表者は次のとおりである。

- ①「学問としての秘書理論体系化に対する再検討」菊池 真一
(北海学園北見女子短期大学)
- ②「接遇における意識と対人行動の関連について -接遇教育の方向性を探る-」松原智津子（静修短期大学）
- ③「オーストラリアの秘書教育」渡辺 一郎（静修短期大学）

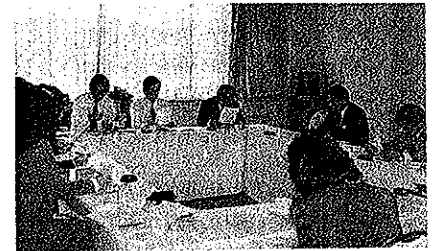
(2)第11回研究会の開催
期 日：平成2年11月17日（土）

会 場：KKR札幌
出席者：15名

開会挨拶、白川先生から運営委員会の報告、そして浅川先生の海外研修についての詳細な報告があり、それについての懇談会、その後懇親会という順序で会が進行した。

海外研修の報告では、日系企業を訪問して幹部たちと会したなかでポストと秘書とのコミュニケーションの重要性や個人秘書の採用難の実情などが話題になったこと、大学・短大等を訪問して高学歴化、上位校志向を実感したこと、また、秘書教育においても準学士（associate in applied science, secretary art program）が採用要件になってきていることなど学歴重視の傾向が紹介された。

懇談会では活発な意見交換が行われ、日本型の秘書、日本における秘書教育のニーズや方向性が話題になった。（渡辺一郎 記）



関東・東北ブロック

- リーダー
森脇 道子 産能短期大学
- サブリーダー
佐藤 啓子 常磐大学短期大学部

運営委員

- 天野 恒男 東京家政学院短期大学
- 大宮 登 山形女子短期大学
- 佐藤東九男 東京工芸大学女子短期大学部
- 白井 勇 専門学校 中野スクール・オ

- ブ・ビジネス
須賀 登 専門学校 東京スクール・オ
ブ・ビジネス
高井由喜雄 学校法人 川口学園
中佐古 勇 十文字学園短期大学

西谷 正弘 目白学園女子短期大学
 原田 夏子 共栄学園短期大学
 藤田 利久 産能短期大学
 藤本 幹子 千葉経済短期大学
 堀江 光 城西大学女子短期大学部
 矢沢 園子 津田スクール・オブ・ビズネ
 ス

【平成2年関東・東北ブロック研究会報告】

ブロック研究会も6年目を迎え、運営も軌道に乗った1年であった。「秘書理論」「秘書実務」「国際秘書」「情報処理」「Q&A(新入会員)」5グループに分かれてのテーマ別研究会も2年を経過し、その活動は順調なものとなった。

平成2年のブロック研究会は、つぎのような活動をととして、研究の積み上げを図ってきた。

【研究会活動】

第10回研究会は、平成2年2月24日(土)、専門学校東京スクール・オブ・ビジネスを会場に、105名の会員が参加して行われた。

研究発表に先立ち、リンダ・ラディン氏が、ビジネス現場の在日外国人の立場から、「異



文化と人間関係」と題して講演を行った。

【研究発表】

〔秘書理論〕関東短期大学の青島祐子氏が「秘書と上司との効果的なコミュニケーションについて」と題して発表。秘書には高度のコミュニケーション能力が必要である。これは、総合的能力であり、その養成には多角的アプローチが重要である。

〔秘書実務〕東京家政学院短期大学の天野恒男氏が「秘書教育における『事務管理』のねらいと内容」と題して事例研究発表。適切な情報処理のしくみを確立し、機能させるべき事務管理の教育にあたり、的確なねらいと内容を定める必要がある。

〔国際秘書〕産能短期大学の宮城まり子氏が「秘書教育における異文化理解の意味と方法」と題して発表。語学力をいかにしたビジネスコミュニケーション・スキルに加えて、ビジネスの背景となる諸外国異文化の正しい理解と認識が必要である。

〔情報処理〕東京工芸大学女子短期大学部の上山俊幸氏が「秘書教育における情報処理教育」と題して発表。最新の技術で情報処理教育をすることは必要だが、技術主導ではなく、教師は、O A機器が教育の手段であることを認識する必要がある。

第11回研究会は、平成2年10月6日(土)、水戸市の常盤大学短期大学部に、96名の会員が参加して開催された。

研究発表に先立ち、同大学教授の後藤和彦氏が、秘書のコミュニケーションをパフォーマンスの観点から見て「秘書と演技」と題して講演した。

【研究発表】

〔秘書理論〕文理情報短期大学の井出裕久氏が、「秘書研究における『専門職』概念の再検討」と題して発表。G・ミラーソンのプロフェッション概念に照らして考察。「公衆による認知」がなされている秘書は、専門職といえるであろう。



〔秘書実務〕常盤大学短期大学部の鈴木昭平氏が「企業の採用担当者は秘書業務に何を求めているか」と題して調査結果を発表。秘書の主な業務は、①接遇・応対

②上役の身辺雑務 ③スケジュールリング、秘書職へ配置するにあたって考慮するのは、①人柄 ②経験 ③学歴の順になっている。

〔国際秘書〕シグナ保険会社秘書の石川愛氏が「異文化職場における情報提供者としての秘書」と題して発表。異文化職場における秘書は、テクニカルな補佐的存在からコミュニケーションオフィサー的存在、上司への情報提供者としての役割にウェイトが移りつつある。

〔情報処理〕山形女子短期大学の會津謙一氏が、「秘書に望まれる情報処理能力—企業のニーズ—」と題して発表。企業ニーズは、①データに対する表現 ②システム運用 ③システム改善などの能力であり、基礎的知識、データ加工・表現などの应用能力、システム分析改善能力の教育が必要である。

(藤田利久 記)

中部(東海・北陸)ブロック

●リーダー

奥 喜久男 東邦学園短期大学

●サブリーダー

吉田 寛治 金沢女子短期大学(北陸地区)
 中村 健壽 静岡県立大学短期大学部(東海地区)

運営委員

(東海地区)

伊藤 和子 市邨学園短期大学
 河村 眞澄 名古屋短期大学
 佐々木 怜子 愛知学泉女子短期大学
 島名 正英 愛知女子短期大学
 島本みどり 東邦学園短期大学
 清水たま子 東邦学園短期大学
 富田 義孝 享栄商業高等学校
 水野 清子 岡崎女子短期大学

(北陸地区)

岡野 絹枝 富山経済専門学校
 奥村 眞澄 仁愛女子短期大学
 北潟 克輔 金城短期大学
 水谷内徹也 星稜女子短期大学

研究会活動

1. 「中部ブロック研究会」

東海・北陸分会合同の「中部ブロック研究会」は、1990年11月10日(土)、金沢市の「兼六荘」で開催された。当日は、北陸地方

へ寒波が襲いかかり、強風さらに災(みぞれ)模様というあいにくの天候にもかかわらず中部地方各地から24名の参加者があった。

まず、金沢女子短期大学の西川峰高先生が会の準備・運営の経過報告と共に当日のプログラムなどについて説明され、金沢女子短期大学の吉田寛治先生が開催地を代表して挨拶された。

引き続き、特別講演をロゴセラピーの研究ではわが国の第一人者である五大塾の鈴木丈織先生に「資質養成と人間育成」と題して行っていただいた。

自分のもてる力をいかに発揮するか、あるいは素早い反応がどれだけとれるようになるかが資質の開発に結び付くことなど詳細な例をあげながらの熱のこもった講演であった。秘書教育における資質の養成や教育という問題は、秘書学研究者が一緒に興味・関心をい



る新しい方向を示唆する内容でもあり、参加者一同大いに刺激と感銘を受けた。

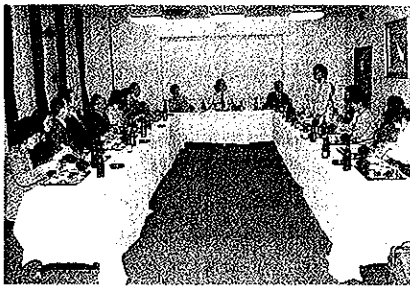
参加者から多くの質疑が出されたが、講師の鈴木先生は親切かつ丁寧な応答をされ、一層充実したものとなった。

続いて、金城短期大学の北潟克輔先生の司会によって研究発表に移り、まず愛知学泉女子短期大学の加藤貞夫先生が「情報整理と生活化」と題して、秘書業務だけに限らず生活のなかで身近に溢れる情報(広義の意味での情報)の具体的な整理・管理方法について事例発表をされた。

次いで、北陸学院短期大学の菱田洋子先生が「教室における資質養成訓練の実態—資質養成訓練を通して秘書教育担当者のあり方をさぐる—」と題して、ビデオ教材の「チャタリングセクレタリー」パートⅡ(日本秘書クラブ監修)を用いた調息法や言葉の置き換え、暗示歩行などの指導の実践報告をされた。

それぞれの発表について、出席者から質問や意見が出され、予定の時間を越えるという活発なものであった。

研究会終了後、同会場で懇親会がもたれた。講師、研究発表者を囲み、富山経済専門学校の中野絹枝先生の司会でなごやかな雰囲気の中に先の特別講演、研究発表をもとに技術から理論、さらには哲学に及ぶさまざまな意見や質問などの応酬が続き、また参加者相互の



研究、教育に関する情報交換などと意義深い古都の宵を過ごした。

2. 「北陸分会」研究会

北陸分会研究会は、1990年5月26日(土)、金沢市の「金沢都ホテル」を会場として、七尾短期大学の鈴木孝昌先生に「秘書と情報」と題する講演をお願いし、それにもとづいて活発な質疑応答を行った。

3. 「東海分会」研究会

東海分会研究会は、1991年2月16日(土)、尾張旭市の名古屋女子商科短期大学を会場として開催予定で、目下、営々準備中である。

(中村健壽 記)

近畿ブロック

●リーダー

田中 篤子 松蔭女子学院短期大学

●サブリーダー

福永 弘之 兵庫県立姫路短期大学

運営委員

荊木 淳己 京都短期大学

宇都宮垂穂 園田学園女子短期大学

緒方 真澄 平安女学院短期大学

武田 寿子 大阪医療技術学園

矢野智恵子 京都経営経理専門学校



〔第11回研究会〕は、43名の参加をえて、平成2年3月21日の「春分の日」に大阪の「なにわ会館」で行いました。

はじめは講演で、福永サブリーダーの「志木サテライトオフィスの実験」と題するもので、東武鉄道東上線柳瀬川駅近くのスーパーの4階で、富士フィルム、リクルート、住友信託銀行、鹿島建設、内田洋行、NTTによって行われている職住近接のサテライトオフィスの実験をスライドをもとに解説しながら、更に在宅勤務の実態やこれら勤務形態の変化にともなうオフィスの変貌、加えてこれらの下部構造の変化が秘書に如何に影響するかについて述べました。

次は個人研究発表で、京都文化短大の石田純子先生が「外資系企業における秘書業務の

分析および日本企業における秘書業務との比較」と題して、外資系企業の秘書の実態調査をもとに発表されました。

二番手は、日ノ本学園短大の杉田乾伍先生による「短大秘書コースにおける情報教育一名刺システムについて」の発表で、ブック型パソコンを使つての授業の実践報告が行われました。

三番手は、聖和大学短大部の林雄太郎先生の「薬剤師秘書の職能について」の発表でした。

薬剤師といっても病院の薬剤部長の秘書のことで、未だ研究の進んでいない分野に切りこむ意欲のある研究でした。

グループ別研究会は、福永講演をもとに小グループに分かれて、新しいオフィス環境に伴う秘書業務の変貌や問題点について話し合い、グループ別のまとめを発表して散会しました。

〔第12回研究会〕は、47名の参加をえて、平成2年9月29日、大阪の「なにわ会館」で行いました。

最初は総会で、田中リーダーのあいさつ・平成元年度の活動報告、福永サブリーダーの収支決算報告、緒方運営委員の監査報告が行われ、全て承認されました。

今回は講演に代わって特別発表を設けて、帝国女子短大の佐野四郎先生に「女子短期大学における情報教育について」をおねがいました。情報処理教育研究委員会の報告をもとに、同短大の実情の紹介、企業へのアンケートなどをとりあげ、短大生の情報教育についての提言をしていただきました。

個人研究発表は4名でした。帝国女子短大の大藤亨先生は「短大生の表現力について」

と題し、ユニークな国語表現法指導の実践報告を行っていただきました。

神戸学院女子短大の小原将温先生は企業人としての体験をもとに「秘書学確立のために一残された課題としての問題点」と題して、現在までの秘書学関係の論文を概観し、今後の問題点として、1) 秘書概念の再確認、2) 経営者と秘書との有機的關係、3) 秘書学成立の社会的背景の3点を提起していただきました。

大阪成蹊女子短大の亀井清先生は「大阪成蹊女子短大におけるOA教育(Ⅱ)」を先般の発表に引き続き、スライドなどを使ってわかりやすく説明していただきました。

聖和大学短大部の林雄太郎先生は「秘書学の理論確立(Ⅱ)」を家政学の成立過程など他の学問の成立事情など該博な知識の上に論を展開されました。

今回は分科会を設けず、丁度5年目だったので5周年パーティーをしました。

緒方運営委員の進行で、田中リーダーの発声で乾杯、和気あいあいのうちに宴は進みました。本ブロックでは今までこういった懇親の機会がなかっただけに絶好の機会でした。最後に武田運営委員の「万歳」の発声で散会しました。長いようで短い5年間だったと痛感しました。(福永弘之 記)



中国・四国ブロック

●リーダー

清水 慶秀 広島女学院大学

●サブリーダー

森貞 俊二 松山東雲短期大学

運営委員会

岡田 繁 川崎医療短期大学

胡 義博 鈴峯女子短期大学

三宅 耕三 香川短期大学



中国・四国ブロック第7回研究会は、平成2年10月20日、瀬戸大橋を真近に望む「坂出グランドホテル」において参加者45名(含非

した。

研究発表は時間の制約があった関係で質問の時間を割くことができませんでしたが、発表者一同、日頃の研究成果を十二分に発揮されました。研究者と表題については以下の通りです。(発表順)

トップバッターの磯田圭子先生(安田女子短大)は「秘書概論と秘書実務の接点と統合をめざして」と題して、概論と実務の接合を通して学生の資質や能力の掘り起こし作業についての研究。次いで、片山章郎先生(順正短期大学)がワープロ教育は単に機器の機能をマスターするだけでなく、文章力を養成す

る教育をすべきであると「文章力養成のためのワープロ教育」と題して発表。山野邦子先生（高松短大）の「秘書学演習指導におけるひとつの試み」は、学生が主体性を発揮できる授業をするにはどのような学習方法が望ましいかの研究。梅田和子先生（作陽短大）は



「人名簿のシュミレーション・システム」と題して、秘書業務のなかでの人名簿の情報処理に関する研究。次に、「女性のオフィスワークの現状」について島田留美子先生・川瀬啓子先生（安田女子短大）は、文書業務に関す

る実態からみた秘書教育のあり方を研究。須藤芳正先生（聖カタリナ女子短大）は、これからの事務管理の教育内容について「事務管理の新しい方向に関する一考察」と題して発表。藤田雅子先生（広島女子商短大）は、秘書職との関連性から歴史上の人物ヒプラーについて、「ヴェンデル・ヒプラーの人と業績」を発表。次いで、経営組織をベースに経営者と秘書の活動をとらえた今林宏典先生（呉女子短大）の「経営者活動と秘書の人間行動」の研究。山本慶子先生（香川短大）は、従来の「家庭科教育」と「秘書実務」の相違点、共通点から「秘書実務指導の教師の位置づけについて」と題して発表。妹尾勝子先生（広島文教女子大学）は経済学の視点から女子労働の分析を行い、秘書教育のあり方を「女性の雇用動向と秘書教育」と題して発表。次いで、銀行の幹部であり大学で教鞭を執る大上力先生（高知大学）が「企業経営と秘書実務」

と題して、実際のビジネス文書とテキストに掲載された内容についての問題点を発表。中村寛志先生（瀬戸内短大）・三宅耕三（香川短大）は、第7回全国大会において発表した「秘書関連科目の関心度の分析手法」の続編パートⅢを発表。ラストバッターは、桐木陽子先生・森貞俊先生・渡辺和枝先生（松山東雲短大）が「秘書教育の効果と展望」と題して、秘書科卒業生の職業生活から在学中の学習経験がどのような効果を及ぼしているかの研究。

以上のように多彩で質の高い研究内容が多数発表されましたことから秘書教育に意欲的に取り組む姿勢と関心の高さを伺い知ることができました。今後も参加者・発表者とも益々多くなれることを期待しています。次回の研究会は、運営委員の岡田先生を中心に岡山県で開催される予定になっています。

（三宅耕三 記）

九州・沖縄ブロック

●リーダー

井下謙次郎 鹿児島女子短期大学

●サブリーダー

内藤 郁世 佐藤ビジネス専門学校

運営委員

井原 伸允 香蘭女子短期大学

高 禎助 久留米信愛女学院短期大学

加島 静江 中村学園短期大学

佐藤 昭雄 近畿大学九州短期大学

千住 方 西日本新聞社秘書役

田村 幸子 福岡女子短期大学

中川 厚子 長崎女子短期大学

九州・沖縄ブロックの研究会は3月、第9回（研究内容は福岡大会で発表済み）10月、第10回の2回にわたり開催した。第10回研究会の概要は以下のとおりであるが、今回は、従来の研究発表中心に代えて、福岡の社員教育、また学校教育にも造詣の深い企業幹部の方々を招き、「企業の求める人材」「いま、秘書教育に望む」等のテーマで、座談会形式で行なった。



日時 10月26日（金）

場所 福岡市・西部ガス本社ビル パビオン24（同ビルは1989年日経ニューオー

フィス賞「日本経済新聞社賞」受賞）

出席者 約40名

パネリスト

西部ガス・リビング販売(株) 社長 亀津

正武氏、(株)博多大丸 専務 野瀬信一氏、

エントリーサービス・プロモーション(株)

副社長 新井洋子氏

司会 鹿児島女子短期大学 井下謙次郎

まず、司会者から今回の座談会の趣旨について、福岡における秘書教育導入の先駆者ともいえる林禎二郎先生の「全国的にみても、秘書教育の隆盛にもかかわらず、激動する現代社会のなかで、常に過去の教育活動の点検、脱皮、創造的活動が必要であり……」（秘書教育史・福岡女子短大秘書科編集序文）の言葉を引いて、以来20数年を経た今日の秘書教育が、現代の社会の要請にマッチしたものであるのか。今、社会が、企業が、どのような人材を求めているのか。今回の座談会で、秘書教育のあるべき姿との接点が見出せたらと期待している、とのあいさつがあった。

ついで、北九州の「女性問題推進協議会」の副会長も務めておられる亀津氏は「国際婦人年、雇用機会均等法等とともに高度成長に伴う極端な人材不足は女性にとって千載一遇のチャンスである。」また「企業からみて、常にモノを造る側にいた男性には、消費者としての女性から、豊かさとは何かを教えられる。今、女性がわからないとモノも売れない時代である。しかし、女性の役割が重要になったものの、女性の意識が本当にリンクしてきているのかどうか。」と女性進出の必然性と女性の意識について問題提起された。



また、野瀬氏は、今の若者は「感覚的（イメージ重視）ミー・イズム（私中心）カジュアル志向、それに国際化も要請されている」とし、このような傾向を前提とした上で、企業は社員個人に脱皮を求めるのではなく、企業自体が脱皮すべきではないか、と指摘された。そのうえで、言葉やマナーの問題に、企業の教育訓練の問題として、企業側の責任を強調された。

また、新井氏は、「当社は、まさしく女性パワーで伸びた会社であり、女性パワーが遺憾なく発揮されており、生き生きと仕事をしている。最近の人材派遣への希望者に一流企業のOLが多いのが目立つ。彼女たちの意見は、思ったような会社ではなかった、自分の能力が生かせず、存在感がない、もっとやりがいのある仕事をというのがほとんどである。」と女性の意識と企業側の対応のギャップを指摘された。

ブロック研究会としては、このような形は初めてであったが、その後、パネラーの意見をめぐって活発な論議が交わされた。

研究会終了後、パビオン24見学の後、同ビル内レストランで講師を囲んで懇親の集いが持たれた。

（井下謙次郎 記）

訃報

以下の役員の先生方がお亡くなりになりました。謹しんでご冥福をお祈りいたします。

顧問 伊藤森右衛門先生（平成2年8月6日ご逝去）

〃 横山静祺先生（平成3年2月7日ご逝去）

研究発表募集のお知らせ

現在、第10回全国大会（9月5日・6日、札幌市）での研究発表を募集いたしております。詳細につきましてはすでにご案内のとおりですが、従来にも増して会員の皆様からの活発なお申し込みをお待ちしております。

なお、提出期限は3月13日（事務局長必着）となっておりますので、ご留意下さい。